

オーラルフレイルの新基準と口腔機能低下症

東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 主任教授 上田 貴之

2024年4月1日に、日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会の3学会は合同で、「オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント」を公表した。その中で、オーラルフレイルをセルフチェック可能なOral frailty 5-item Checklist (OF-5) が提唱された。5項目の質問に対して、2項目以上に該当する場合にオーラルフレイルに該当するというものである。OF-5でオーラルフレイルと判定されると、将来のフレイル、要介護認定、死亡のリスクが高いことがわかっている。オーラルフレイルは、歯科だけでなく、医科を含めた多職種で広く活用されるようになってきており、国民の関心も高まっている。

フレイル (Frailty) は、従来の虚弱と似ているが異なる概念であり、中間的、多面的、可逆性の3つのキーワードで説明される。フレイルと密接に関連するオーラルフレイルへの対応は、フレイルへの対応と同様に、単に口腔の運動機能だけでなく多面的にとらえて対応する必要がある。オーラルフレイルは、口腔の機能障害の1歩手前の段階であり、この段階での対応が重要である。オーラルフレイルと全身状態や認知機能との関係について、エビデンスや取り組み事例について紹介したい。

また、オーラルフレイルと混同されやすい、口腔機能低下症について、両者の関係性とともに関説したい。2016年に日本老年歯科医学会は、高齢期における「口腔機能低下症」の定義と診断基準を公表し、2018年4月からは保険診療として検査と管理が行えるようになった。口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下の7項目の検査を行い、3項目以上が該当するものを「口腔機能低下症」と診断する。診断後には、口腔機能管理が行われるが、その具体的な方法についても紹介したいと思う。

【略 歴】

東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 主任教授
上田 貴之 (うえだ たかゆき)

1999年	東京歯科大学卒業
2003年	東京歯科大学大学院歯学研究科修了
2003年	東京歯科大学・助手
2007年	東京歯科大学・講師
2007年	長期海外出張 (スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授)
2009年	東京歯科大学復職
2010年	東京歯科大学・准教授
2016年	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与 (2018年まで)
2019年	東京歯科大学教授



主な活動

日本老年歯科医学会 常任理事・専門医・指導医
日本補綴歯科学会 理事・専門医・指導医・広報委員長
日本歯科医学教育学会 理事・教育評価委員会委員長

主な著書

診療室ではじめよう！ 口腔機能管理と栄養指導 (永末書店)